

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-190	14-151	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Technology-based support via telephone or web: A systematic review of the effects on smoking, alcohol use and gambling. 喫煙、飲酒、ギャンブルに対する電話や Web サポートの効果に関するシステマティック・レビュー		
執筆者		
Danielsson AK, Eriksson AK, Allebeck P.		
掲載誌		
Addictive Behaviors. 2014 Dec;39(12):1846-68. doi: 10.1016/j.addbeh.		
キーワード		PMID
アルコール、ギャンブル、インターネット、電話、タバコ		25128637
要 旨		
目的：		
本研究の目的は、喫煙、飲酒やギャンブルに関する電話あるいは Web サポートによる支援事業の効果についてシステマティック・レビューを実施することである。		
方法：		
PubMed と PsychInfo を使用し、研究デザインが RCT であること、電話または Web サポートに焦点を当てていること、エンドポイントに喫煙・飲酒・ギャンブル行動が含まれること、期間中に治療を受けていないこと、少なくとも 3 カ月以上の追跡を行っていることを条件とした。1966 年から 2013 年までの文献が検索された。		
結果：		
74 論文が抽出され、Web サポート支援の介入については、飲酒は 36 論文、喫煙は 21 論文、ギャンブル行動は 1 論文で効果の報告があった。また、Web サポート支援のヘルプラインについては、喫煙は 12 論文、飲酒とギャンブル行動は各 2 論文において効果がみられた。電話相談のヘルプラインの効果については、飲酒で 1 論文があるのみであった。また、一方、Web サポートについては、大学生の過度の飲酒には有効であるという報告もみられた。		
結論：		
Web サポート支援の介入については、飲酒、喫煙、ギャンブル行動において効果があるとの報告があった。一方、電話での支援は喫煙に関する効果が得られたが、飲酒やギャンブルについてのエビデンスは得られなかった。但し、飲酒、ギャンブル、喫煙のいずれにおいても更なる検討が必要と考えられる。		